

水土里レポート 投稿様式

投稿月日	平成29年12月15日
タイトル	「くわい」や農業用水について出前授業をしたよ！
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

平成29年11月28日（火）福山市立川口小学校で5年生97人に水土里ネット福山より「くわい」や「農業用水」について出前授業をしました。

川口小学校では毎年5年生が校庭にあるミニ田んぼでくわいを栽培し、そのくわいをを使った調理実習を行っておられます。

出前授業では、くわいを収穫する時に水圧を利用して収穫している様子、水圧がどのくらいかよく分かるように屋根より高くホースの水を上げているところや福山の冬の風物詩となっている初出荷の様子など写真を使って説明しました。また、以前農家の方から「川口小学校の子がくわいの農業体験や調理実習をしてくれるおかげで家庭でくわいを食べる機会が増えたと思う。」とお聞きしたことを伝えたところ、学校の取組がくわいの普及に役立っていてうれしいと喜んでいただきました。

続いて、農業用水路について説明しました。小学校のある川口町から約15kmも離れた駅家町から取水していることや除塵機・排水機などの施設について説明しました。

施設の写真を見て、家のすぐ近くにあつて見たことがあるという子もいました。取水も排水も川口町のすぐ近くの芦田川からだと思っていた子どもが多く、びっくりしていました。そして、その農業用水路に「スイゲンゼニタナゴ」という絶滅危惧種の魚がいることを話しました。「みんなで守らないといけない。」と感じてくれたようでした。

校庭のくわいは収穫を待つばかり！



子ども達から質問がありました

Q くわいは何円くらいするんですか？

A 出荷される4kgの箱、1箱が1万円以上の値がつくこともあるそうです。

Q くわいを栽培するうえで気をつけることを教えてください。

A 農家の方からお聞きしましたが、くわいを植えている半年間より植えていない半年間の土作りが肝心だそうです。

Q くわいの調理方法を教えてください。

A 以前は正月のおせち料理の中にある煮物でしたが、最近では小粒のくわいを素揚げにするのが人気です。みんなも色んなレシピを考えてみてください。

一旦、出前授業を終わり各教室へ移動し、芦田川水系スイゲンゼニタナゴ保全協議会から提供された「スイゲンゼニタナゴ」のペーパークラフトBOXを製作しました。各教室を回り、子ども達が色を塗ったり、組み立てたりしているのを手伝いながら交流を深めました。

ペーパークラフトBOXは、農業用水路を覗いたようになっていて農業用水路に生息している魚や貝に色をぬり飾りつけします。「川口の水路もこんな水路になるといいな。」「水路にはいろんな魚がいるんだな。」と言いながら色をぬり、友だち同士で話しながら組立てて完成させました。みんな生き生きと製作してくれました。



ひとり一人が思う農業用水路が完成しました！

今後は、学校のくわいの収穫、くわいの調理実習をする予定となっており、水土里ネット福山は、引き続き農業体験に協力することで21世紀土地改良区創造運動に取り組んでまいります。